季刊誌 ウェルビー

Take free

ご自由にお持ち帰り下さい。

2015.12
Vol.24

一人でも多くのいのちを救いたい。

『家族のためにも、自分のためにも検診を受けて欲しい!!』という思い・メッセージを地域のみなさん協力のもとミュージックビデオを作製し、乳がんいのちプロジェクト第 4 回市民公開講座（10 月 31 日開催）で上映しました。

-Contents-

P. 1　小学生へがん教育 紀和学校～生命（いのち）の授業～
P. 2　最新鋭 MRI の紹介
P. 3　乳がんいのちプロジェクト 第 4 回市民公開講座
P. 4　こもれび ～緩和ケア病棟内覧会～
P. 5　季節を感じる行事食・看護部の院外活動紹介
P. 6　新任医師の紹介・地域連携室便り 地域の架け橋

医療法人南労会 紀和病院

私たちは命の輝き（QOL）を大切にする医療・介護を行います。

医療法人南労会グループ

- ●紀和病院
- ●伊藤病院
- ●松浦診療所
- ●訪問看護ステーション ウェルビー
- ●小規模多機能型居宅介護 森のこかげ
- ●訪問介護 ホームヘルプ紀和
- ●紀和クリニック
- ●みどりクリニック
- ●みどりクリニック デイリハビリ
- ●紀和病院 訪問リハビリテーション
- ●在宅介護支援センター
- ●居宅介護支援事業所ばいかる
- ●紀和ブレスト（乳腺）センター
- ●紀和健康管理センター
- ●居宅介護支援事業所 ケアプランセンター紀和
- ●通所リハビリテーション 紀和リハビリ倶楽部
- ●通所介護　デイサービス春林館
- ●社会福祉法人 紀和福祉会介護老人福祉施設「やまぼうし」（建設中）

小学生へがん教育　紀和学校～生命（いのち）の授業～　和歌山県初

がん予防　小学生から

がんについての正しい知識を伝え、子ども達から家族への検診啓発につなげたいという思いから、橋本市、同市教育委員会、伊都医師会と連携し、紀和病院乳腺外科　梅村定司医師が中心となって授業参観形式で展開する「紀和学校～生命の授業～」をスタートさせました。

全国的にも珍しい取組み

日本人の2人に1人ががんにかかる時代。しかし、大人も含めて正しい知識を知る機会がとても少ないのが現状です。

この現状をふまえ、近年、中学校や高等学校での出張授業などは実施されていますが、小学校レベルで通常の授業に授業参観形式を取り入れて実施するがん教育は、全国的にも非常に珍しい試みです。

グループトークを採用

9月15日、市立西部小学校で初めて授業をしました。梅村医師は、がんの原因や予防、治療方法などを説明し、保護者へも検診の重要性を強調しました。

また、授業のなかでグループトークも実施し、感想や意見を発表してもらいました。

2016年度から橋本市立全小学校で開催

紀和病院では医師、看護師、同市教育委員会などがチームを組み、これからの授業についてさらに検討会を重ねています。

そして来年度からは、橋本市立の全15小学校で「紀和学校～生命の授業～」を順次開催していく予定です。

グループトークで意見を出し合う児童たち

橋本市マスコットキャラクター「はしぼう」とコラボした、がん教育のシンボルイメージ「ピンクリボンはしぼう」

子ども達の未来のために…

がん患者さんをみんなで支えあう思いやりの心を育む

がん教育

YES NO クイズに答える児童たち

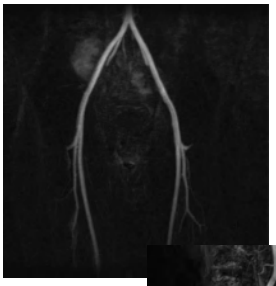
（上）西部小学校のみなさんと
（右）あやの台小学校のみなさんと

最新鋭MRI

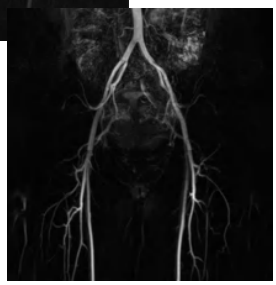
平成27年10月 導入

3.0T-MRI とは

今年 10 月に 3.0T-MRI が導入され、稼動を始めました。3.0T-MRI は高い磁場により細かな部分まで精密な画像が得られます。従来の装置より開口部が 10cm 以上広くなり、今までの装置より開放的になり、狭いところが苦手な患者さんにも快適に検査が受けられるようになりました。また、MRI と言えばうるさい音と振動が付きものでしたが、新システムの採用により、他の装置より音も振動も抑えられ優しく検査を受けていただけるようになりました。当院では、来年より脳ドックとは別に簡便で安価な脳の健診をオプションにて開始することを検討中です。（健診名および価格は未定）脳ドックのような詳しい検査はおこないませんが、脳の状態（古い脳梗塞や萎縮の有無など）・脳血管の状態を短時間で知ることができ、専門医への受診が必要なのか判断できるような内容になる予定です。



左 1.5T
（従来）



右 3.0T
（最新）

下肢動脈 MRA

MRI 装置の特徴は？

MRIは、診断を行なうために適した断面を縦、横、斜めなど自由に撮影できるのが特長です。無侵襲または低侵襲で（放射線による被曝が無い）安全な検査です。目的に応じて優れた画像コントラストが得られます。骨や空気による悪影響がないため、脳や脊髄などを鮮明に診断できます。骨内部の炎症の状態や、筋肉の炎症・出血なども見ることができます。

MRI 装置とCT 装置の違いはなんですか？

どちらも体の断層画像を撮影する装置ですが、最も大きな違いは画像を得る手段です。CTはX線を使って画像を得るのに対し、MRIは大きな磁石による強い磁場と電波を使って画像を得ます。MRIは放射線による被曝がなく、安心して検査を受けることができると言われています。体への影響が少ないため手術後の経過観察などにも使われます。

MRI 装置でどのような疾患が発見できますか？

- 全身の腫瘍性病変
- 全身の炎症性病変
- 全身の血管性病変
- 脳梗塞・脳出血
- てんかん・眩暈・痺れ・耳鳴り
- 認知症・脱髄性病変
- 脊髄・脊椎・椎間板病変（腰痛・頚部痛・手足の痺れなど）
- 乳腺病変
- 腎、副腎、膀胱病変
- 肝、胆、膵病変
- 婦人科系病変
- 四肢関節（骨折・靭帯・半月板など）

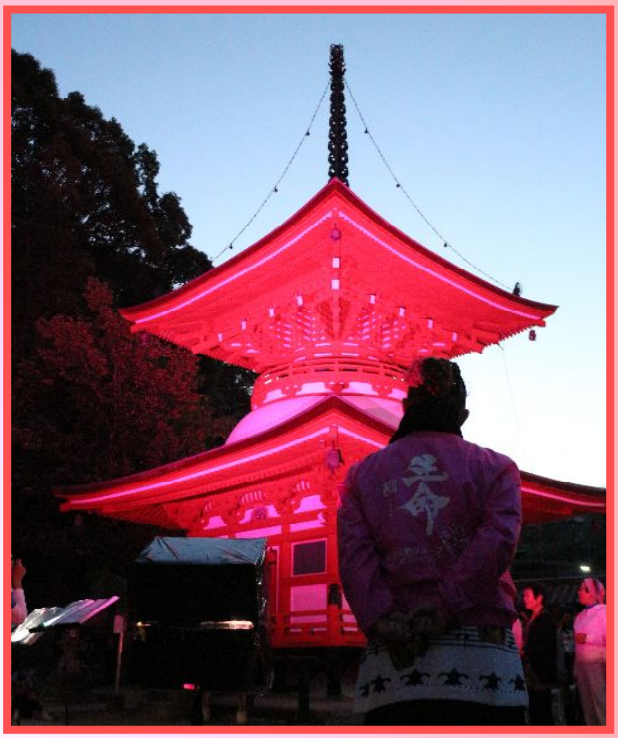
以外にも全身の疾患、部位に有効です。

お問い合わせ
電話：０７３６・３３・５０００（代表）

乳がんいのちプロジェクト　第 4 回市民公開講座

「大丈夫だよ、がんばろう！」

～ いのちを生きる　素敵に生きる ～



10 月 31 日（土）
乳がんいのちプロジェクトが主催で第 4 回市民公開講座を開催しました。約 500 名の方がご来場くださいました。

山田 邦子さん講演会を開催！

講演では、テレビ番組がきっかけで乳がんを発見したこと、その後に受けた検査や手術など、ご自身の乳がん患者としての体験をお話してくださいました。暗くなりがちな体験談を愉快にお話しされ、来場者のみなさんは笑い声が途切れることはありませんでした。

医療法人南労会紀和ブレスト（乳腺）センター 梅村定司医師は、がん検診の重要性や、自分や家族ががんや病気になってしまった時の病気との付き合い方などについてお話されました。
またあやの台小学校から、梅村医師による「がん教育」の授業を受けた 6 年生のみなさんが“子どもから親へ・大人へメッセージ”を発表され、とても意義深い講演会となりました。

橋本高校 邦楽部「波の戯れ」を演奏！

県大会で優勝し、3 年連続で全国大会出場の県立橋本高等学校 邦楽部のみなさんがダイナミックでありながら優雅で繊細なお琴の音色を披露してくださいました。来場者のみなさんは生徒の奏でる美しい音色に聞き入り、盛大な拍手を送りました。

ピンクリボンライトアップ点灯式

同日、世界遺産 女人高野別格本山 慈尊院で多宝塔がピンクにライトアップされました。またピンクリボンをかたどったキャンドルにもご来場くださった方にご協力いただき一つひとつ灯かりをともしました。綺麗な光を見つめながら「のぞみハーモニカクラブ」のみなさんによる演奏が心に染み渡りました。
1 日限りですがシンボルカラーのピンク色に染まった多宝塔から、乳がん検診啓発の思いが、みなさんに伝わり世界に広がることを願っています。

～ピンクの光に込めた 3 つの願い～

- **早期発見のために、一人ひとりが検診を受けてほしい**
- **今、乳がんと闘っているあなたへ勇気を贈りたい**
- **乳がんで亡くなったあなたを忘れないために**

こもれび　～ 緩和ケア病棟 内覧会 ～

10月７日(水)～10日(土)、緑一色だった木々たちが、少しずつ華やかな彩りに移り変わっていく秋の日の４日間、第２回紀和病院緩和ケア病棟内覧会が行なわれました。昨年に引き続き、世界ホスピス緩和ケアデーの最終の日に合わせて行なわれ、おかげさまで大盛況のうちに終了することができました。
足を運んでくださった皆さまや、ご協力くださった皆さまに、心より感謝を申し上げます。

期間中、１度だけの限定開催で、廣岡医師によるスライド写真を用いた『ミニ講演会＆緩和ケア相談』が、行なわれました。ご入院された患者さんが、日々の生活をどのように過ごされているのか、リハビリやお散歩の様子、スタッフと一緒の外出、家族さんとのイベント風景など…。廣岡医師の声に真剣に耳を傾け、しっかりとスライドを見てくださり「これって本当に入院中なの？」と、いう声もあったほどでした。

「緩和ケア病棟の事を少しでも知ってほしい！！」というコンセプトが伝わり、「それまでの病棟のイメージから連想される『暗い・辛い･･･』などとは違った印象を受けた」というお言葉や「心が落ち着いた・やさしい雰囲気が伝わってきた」「患者さんや家族にとって過ごしやすい空間であるための配慮に感激した…」など、たくさんのご意見をいただき、私たちスタッフも心が温かくなりました。

これからも『心なごむ空間』と『共にあること』を大切にしながら、今まで以上に精進していきたいと思います。またお答えいただいたアンケートでは、皆さまの貴重なご意見等いただきましたこと、お礼申し上げます。

『秋のひだまりカフェ』では、ボランティアの方々の力をお借りして、心地良い演奏と共に、なごみの時間を皆さまと一緒に過ごさせていただきました。日替わりの演奏で、ピアノ・アコーディオン・フルート・ヴァイオリン・シンギングボールなど…さまざまな種類の楽器の音色を楽しむ貴重な時間となりました。
秋の澄んだ風と共にそっと奏でられた音楽と、ほのかなコーヒーの香りが漂うカフェでのひとときで、皆さまがほんの少しでもなごみを感じていただけたなら、嬉しく思います。
皆さまとの出会いとご協力に感謝いたします。　ありがとうございました。

４月　桜まつり

季節を感じる

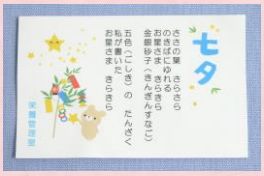
行事食

当院では、季節や行事に
合わせた献立を毎月提供しております

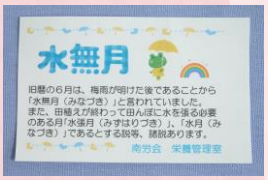
９月　敬老の日

２０１４年の９月に盛り付け配膳室の改修工事を行い、熱風式再加熱カートを導入しました。より患者さんの病態に応じた栄養管理、多様なニーズに合わせた安全でおいしい食事提供を継続していくため、様々な食形態を取り揃え、行事食の充実を図っています。さらに、地域の皆様に知っていただこうと、毎月の行事食の献立展開をホームページにアップしています。

５月　こどもの日



８月　夏祭り



郷土料理として
柿の葉ずしを毎月１回
提供しております。

年間行事食を公開中！
ぜひ、ご覧ください

紀和病院 行事食

調理担当：㈱シダックスフードサービス

～地域活動のご紹介～

看護部

今年は、隅田地区盆踊り大会、神野々地区夕涼み会、紀見北地区夏まつり、紀の川橋本 SUMMERBALL2015、ふる里よいとこ探しナチュラルブレイク、紀伊見峠「ふるさと展望」、ふれあって！せいぶに、救護班ボランティアとして参加しました。

御神輿巡行中は会場内を
救護車で一緒にまわります。

昨年に引き続き、SUMMERBALL の
救護ブースにも紀和病院が参加しました。

救急バッグに乗って空を飛ぶナース“ウェルビー”のように、病院の枠にとらわれず、地域住民の皆さまのお役に立てるよう活動しています。

新任医師の紹介

土生　康雅　はぶ　やすまさ

所属診療科：内科

【略歴】自治医科大学（平成２年卒）

平成 27 年 11 月より山頂の高野山総合診療所から、下界の紀和病院へ赴任させていただいております。以前は、診療所で、内科、外科、小児科等様々な疾患に対応し、住民の皆様と家族同様におつきあいさせて頂き、みんなで笑いあり、泣きありの日々でした。今回は、紀和病院という大きな病院勤務は初めてであり、少しとまどいもありますが、今までの経験を生かし、患者様に気軽に声をかけて頂ける医師をめざしてがんばりたいと思います。皆様よろしくお願い申し上げます。

地域連携室便り

地域の架け橋

医療法人英裕会　横手クリニック

院長　横手 英義　先生

九度山で生まれ、信仰厚い両親に育てられた私は、和歌山医大を卒業し医大脳神経外科で助手として勤務していたときに、両親から、医療の充実していない故郷へ帰ってきて、住民の皆様の役に立つように開業しないかと勧められ、この地で循環器内科を専門とする妻と有床診療所（現在は、無床）として始め２５年となりました。開院当時より、脳疾患、心疾患の救急疾患に対応するだけではなく、MRI 装置を導入し、脳疾患の予防に努めてきました。最近、高齢化の進むこの地域で、多くのお年寄りの診察に当たり、病気を診断し治療することは当然でしょうが、いま「人を診てあげたい。」という気持ちで、患者さんが独居生活なのか、食事はどうしているのかなど、また、介護保険の利用など、ライフスタイルまで知ることで、疾病の改善を図るように、従業員一同勤めています。もちろん、通院困難になられた方には、伊都医師会のゆめ病院システムを使って在宅医療の支援を行っています。

TEL　0736-54-3111

〒648-0101　和歌山県伊都郡九度山町九度山 800

「地域に根ざす紀和病院」

私が伊都医師会長に就任した平成１８年ごろ、救急患者のたらいまわしのニュース報道が何度も他府県でありました。この頃、率先して救急医療の受け入れを担ってくださったのが、紀和病院でした。紀和病院は、医師会の目指す、住民の皆さんが、この地域に住んでいてよかったと思っていただける町づくりのために、この地域に不足している医療の充実にいち早く努めてこられました。

たとえば、緩和ケア病棟。これは、ガン末期の患者さんの疼痛を軽減し、少しでも楽な気持ちになっていただけるように、畳の部屋などを設置し、自宅に居るような環境を作り、苦しむ患者さんに安心感を与える病棟です。ここでは、抗がん剤を使って、その副作用に苦しめられるより、緩和、痛みの治療を専門とする医師、看護師など多くのスタッフで、末期の患者さんに寄り添う医療が行われます。これまでにどれほど多くの患者さん、その家族の方々の気持ちが救われたことかと思います。

また、ブレストセンターの取り組みが素晴らしい。女性の敵、すなわち人類の敵でもある乳がんの治療に、最高のスキルによる手術療法に加え最新の化学療法の提供はもとより、特筆すべきことは、さらに、患者さんの心のケアーをされていることです。今年、弘法大師の高野山開創１２００年に当たります。１２００年前、他人のことを思いやる利他の気持ちの大切さを唱えた弘法大師の母の菩提寺である、九度山の慈尊院を患者さんに紹介され、このセンターでは、科学、技術だけに頼るのではなく、心の安寧を絡めた治療が行われています。今後とも、紀和病院が地域のニーズに応える医療を展開していただくことを心より望んでいます。

（本文は院長　横手英義先生よりご寄稿いただきました。）